

# 令和2年度農林水産部主な取組

**これまでの実績**

- ◆新規就業者の確保
- ◆大規模団地の増加
- ◆日本一の産地づくり
- ◆ほ場整備の進展
- ◆スギ製品出荷量
- ◆農業産出額の増加

〔農業：6年連続で200人/年以上、林業：約130人/年、漁業：約10人/年〕  
 〔園芸メガ団地：(H29)20団地 → (R1)41団地〕、〔畜産団地：(H29)36団地 → (R1)41団地〕  
 〔えだまめ：(R1)年間出荷量で日本一、しいたけ：(R1)販売額、販売単価で日本一の見込み〕  
 〔年間整備面積：(H29)839ha、(H30)842haと2年連続で800ha超〕  
 〔(H28)591千㎡ → (H29)634千㎡ → (H30)640千㎡と順調に増加〕  
 〔米以外の産出額：(H29)785億円 → (H30)807億円と増加し、過去20年間で最大〕

**推進方向**

- 競争力の高い経営体の育成や複合型生産構造への転換など、これまでの取組を一層強化し、農林水産業の成長産業化を促進する。
- ICT等の先端技術を活用し、生産から販売までの一貫体系による「次世代型農林水産業」の推進を図る。
- 県産材の需要開拓や生産流通体制の強化により林業・木材産業の成長産業化を進めるとともに、海づくり大会を契機とした水産振興や、地域資源を生かした魅力ある里づくりにより農山漁村の活性化を図る。

## 1 人口減少時代における多様な担い手・労働力の確保

**① 地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成**

- ◆ 農業法人の連携や統合等による集落営農組織の再編推進
- ◆ 農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化の促進

**農業法人数**  
(H30)656経営体 → (R2)790経営体 → (R3)850経営体

**② 多様なルートや幅広い年齢層からの新規就業者の確保・育成**


- ◆ 実践研修やインターンシップなど研修制度の充実

**農林漁業の新規就業者数**  
(H30)376人 → (R2)425人 → (R3)435人

**③ 労働力の安定確保と快適な就業環境の整備**

- ◆ 秋田県農業労働力サポートセンターの機能強化

**J A 無料職業紹介所**  
(H30)3 J A → (R3)全 J A



## 3 ICT等の先端技術を活用した次世代型農林水産業の推進

**① 大規模な土地利用型農業におけるスマート技術一貫体系の実証**



- ◆ 水稲+大豆の生産から出荷までの先端技術を体系的に組み立てた営農実証
- ◆ 大区画ほ場における自動水管理システムの実証

**稲作における労働時間・生産コストの大幅な削減**  
21時間/10a → 14時間/10a、10,500円/60kg → 7,000円台/60kg

**② 新技術を活用したスマート園芸の推進**

- ◆ 花き(キク)大規模経営での効率的な生産体系の実証

**労働時間の大幅な削減**  
671時間/10a → 472時間/10a ▲30%

## 2 複合型生産構造への転換に向けた取組のパワーアップ

**① 大規模生産拠点の全県展開**

- ◆ 園芸メガ団地や大規模畜産団地等の整備促進
- ◆ 営農開始後における生産技術指導や経営診断等によるフォローアップの強化

**園芸メガ団地等の整備**  
(R1)41地区 → (R2)46地区 → (R3)50地区

**大規模畜産団地の整備**  
(R1)41地区 → (R2)45地区 → (R3)50地区

**② 日本一を目指した園芸産地づくり**

- ◆ えだまめ、ねぎ、しいたけ等の日本一を目指した園芸産地づくり

**えだまめ年間出荷量**  
(R1)1,795t → (R3)2,100t

**夏秋ねぎ出荷量(7~12月)**  
(R1)4,676t → (R3)7,300t

**しいたけの販売三冠王**  
年間出荷量 (H30)2,171t → (R3)2,800t





## 4 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

**① 非住宅分野における県産材の需要拡大**

- ◆ 首都圏の自治体等とのネットワーク構築による都市木造の需要開拓
- ◆ 中高層建築物への木材利用に向けた木質2時間耐火部材の開発

**スギ製品出荷量**  
(R1)670千㎡ → (R2)688千㎡ → (R3)706千㎡

**② 木材の生産流通体制の強化**

- ◆ コストの低減による再生林の推進
- ◆ 林内路網などの基盤整備の推進

**再生林面積**  
(R1)320ha/年 → (R2)380ha/年 → (R3)508ha/年

**③ 森林経営管理制度の円滑な推進**

- ◆ 支援員による市町村へのサポート
- ◆ ドローンを活用した森林調査の実証

**支援員の配置**  
県北(1人)、中央(2人)、県南(1人)






**③ 重点野菜のV字回復戦略の推進**

- ◆ 半促成栽培など新技術の導入によるアスパラガス、きゅうりの生産拡大

**アスパラガス年間販売額**  
(H19)12億円 → (H30)7億円 → (R6)14億円

**きゅうり年間販売額**  
(H19)20億円 → (H30)13億円 → (R6)17億円

**④ 水稲極良食味新品種のトップブランド化に向けた取組**

- ◆ 秋田米のフラッグシップとなる新品種の名称の募集・決定
- ◆ 高品質・良食味を安定的に確保するための生産・出荷基準等の設定

**極良食味新品種デビュー対策の本格化(R4)市場デビュー**

**⑤ ターゲットを絞った県産農畜産物の輸出促進**



- ◆ 秋田牛のルートを活用した台湾への県産果実の輸出拡大
- ◆ 集客力のあるシンガポールの百貨店における秋田フェアを通じた実需者への販路開拓

**りんご・ももの台湾輸出(R4)本格輸出の実施**

**⑥ 産地づくりと一体となったほ場整備の推進**

- ◆ 園芸メガ団地や農地中間管理機構と連携した「あきた型ほ場整備」の推進

**ほ場整備面積**  
年間800haの整備

## 5 魅力ある農山漁村の活性化と保安全管理の推進

**① 立地条件を活用した魅力ある里づくり**

- ◆ 山菜や伝統野菜、伝統行事や祭りなど地域資源を生かした魅力ある里づくりの促進
- ◆ 農業体験や農泊など都市との交流活動の促進

**② 海づくり大会を契機とした水産振興の新たな展開**

- ◆ キジハタの資源増大やギバサの養殖などつくり育てる漁業の一層の推進
- ◆ 鮮度保持技術の普及や加工品開発などによる県産水産物のブランド化
- ◆ 地魚PR活動による県産水産物の認知度向上とファン獲得

**③ 農地や森林、漁港等の保安全管理と防災・減災対策の推進**

- ◆ 農業水利施設等の整備や長寿命化、保安林の整備

